

科目名：グローバル理工人入門

英文科目名：Introductory Course for Global Scientists and Engineers

担当教員：横倉順治、太田絵里

講義形態：通常講義

講義開催場所：大岡山

使用言語：日本語、英語

講義概要・授業の目的：

世界のグローバル化に伴い、キャリアの形成に関しても、グローバルな視点を養うことが求められる。本講義では複数の講師による国際社会での活動経験紹介、国内外の事例調査等を通じ、国際性を高め、グローバルに活躍するための能力の基礎を身に着ける。

到達目標・学習する知識・技能：

世界のグローバル化の現状について、関連分野で活動する講師を招き国際社会で活動経験、必要な能力、スキル育成の方法等について講師の経験に基づき紹介する。その後で課題解決型学習（PBL）に基づくグループワークを行い、①課題発見・解決力、②異文化理解力、③チームワーク力を身に着ける。これにより、国内のグローバル化を実感した上で、我が国の世界における役割を考察する。

授業の運営方法：

本授業は、複数の教員による講義、ゲストスピーカー、グループワーク、発表で構成される。グループワークは、PBL 調査により実施する。グループワークは、諸外国に対する理解の向上をテーマとする。グループワークには留学生がティーチングアシスタントとして参加し、留学生の出身国が抱える課題を発見することを目的とする。留学生からの情報を基に、それを裏付けする資料を収集した上で、問題点を明らかにし、課題解決のための提案を行う。

授業計画・内容

- ① 世界のグローバル化の現状についての講義（ゲスト講師による問題解決型の事例紹介、自身のキャリア形成について必要であった能力やそれを育成すべき方法についてのアドバイス）
- ② 国内外の事例調査の方法・グループワークの説明（プロジェクトの内容、発表およびレポートの構成）
- ③ グループワーク（テーマ・調査内容・調査方法・調査における問題の共有、議論）
- ④ グループ発表と総括

科目名：グローバル理工人概論

英文科目名：Advanced Course for Global Scientists and Engineers
(Focus on Europe and North America)

テーマ：欧米編

担当教員：Tom Hope

講義形態：通常講義

講義開催場所：大岡山

使用言語：英語

講義概要・授業の目的：

科学者・技術者には、グローバル化する世界の中で働き、問題解決に取り組むための知識と技術が求められる。「グローバル」とは、国家間のつながりを理解し、異なる文化のなかに相違点と類似点を認めることを意味する。本講義ではヨーロッパと北米に焦点をあてる。主観的及び主観的なデータの収集と分析に重点を置いたグループ研究から、異文化理解と現代社会で我々が影響を受ける相関的な問題について学ぶ。

到達目標・学習する知識・技能：

科学者・技術者として知っておくべきヨーロッパと北米の問題について知識を深めるとともに、①信頼性の高いデータを収集し、②英語でインタビューし、③メディアで報道される問題の本質に迫り、わかりやすく説明する経験とスキルを身につける。また、英語でグループワークを重ねることで自信をつける。

授業の運営方法：

導入のための全体講義の後、グループワークを通じデータの収集と分析を行う。予習としてオンライン、オフラインでデータ収集をすることが望ましい。講義には、データ収集を助け研究対象を絞り込むためのアシスタントが参加する。グループで発表やレポートを行うことによりグローバルな視点を養い、チームワークを学ぶ。

授業計画・内容

- ①導入： ヨーロッパ・北米の事例を通してグローバル化を実感する。わかりやすい問題と調査スキルの入門編。
- ②グループワーク： インタビューやディスカッションを通じたテーマの選択。
- ③グループワーク： データを使ってテーマの理解を深める。
- ④問題の要約と最初の報告： 研究対象の絞り込み。
- ⑤グループワーク： データ分析
- ⑤ グループワーク： データ分析と発表準備
- ⑥ 最終報告と総括

**Course Title: Advanced Course for Global Scientists and Engineers
(Focus on Europe and North America)**

Language : English

Objective and Summary of the Course:

Engineers increasingly need to have knowledge and skills suitable for working in international environments and tackling global issues. “Global” means understanding connections between nations and recognizing differences and similarities between different cultures. In this course the focus is on issues in Europe and America. Through group research emphasising the gathering and analysis of objective and subjective data, students will explore case studies to gain an appreciation of different cultures and the interrelated issues that affect them in contemporary society.

Knowledge and Skills to be Gained:

This course will provide students with selected skills and experience to further their knowledge of issues in Europe and America that engineers should be aware of. These will include 1. Skills in finding and assessing quality of data; 2. Skills and experience of research interviewing in English; 3. Experience of producing descriptive accounts to get ‘beneath the surface’ of media-reported issues. Students will gain confidence in group-work conducted mainly in English.

Structure of the Course:

Classes will consist of brief introductory lectures, followed by group-work to plan, perform data collection, and analyse findings. Students will also be encouraged to collect data from online and offline sources before class. Classes will include the participation of Teaching Assistants who will be used as additional sources of data and to help students focus their study. The course encourages students to work in a supportive team-work style, helping each other improve their global awareness through responding to each others’ presentations and reports.

Course Plan:

1. Introduction to Global Awareness in the context of Europe and America. Introductory issues and research skills.
2. Guided group-work: Selecting issues. Discovering issues through interviews and discussion.
3. Guided group-work: Expanding understanding of issues with data.
4. Summaries of issues and first reporting session. Narrowing study focus.
5. Guided group-work: Data analysis session
6. Guided group-work: Further analysis and presentation preparation
7. Final reporting session and review

科目名：グローバル理工人概論

英文科目名：Advanced Course for Global Scientists and Engineers

(Focus on Asia)

テーマ：アジアから学ぶ

担当教員：アーナンダ・クマール

使用言語：英語（レポートは日本語でもよい）

講義形態及び開催場所：通常講義（大岡山）・集中講義（すずかけ台）

講義概要・授業の目的：

グローバル化の進展により企業の活動範囲は拡大され、我が国のような先進国の企業は他の先進国だけでなく、現在、開発途上国にまで活動を広げている。以前、開発途上国は、先進国にとって主として開発援助の対象として見られていたが、現在は良きビジネスパートナーとしても位置付けられるようになってきている。

本講義では、アジアの開発途上国を事例国として取り上げ、それぞれの国々に対する理解を深めてもらい、今後の我が国との関わり合いについて検討する。

到達目標・学習する知識・技能：

近代における我が国のグローバル化の歴史・課題を概観すると同時に、時代とともにアジア社会の変化について確認する。先進国に加え、アジアの開発途上国もビジネスパートナーとなってきたことから、我が国の企業・個人がこれらの国々とよりかかわりを持つために必要な知識・ノウハウ・スキルとは何かを紹介する。その上でグループワークにより国内外の事前調査を行い、①異文化理解力、②チームワーク力、③課題発見・解決力を身につける。これにより、グローバル化を実感し、我が国のアジアにおける役割を考察する。

授業の運営方法：

本授業は、講義（担当講師・ゲストスピーカ）、グループワーク、発表で構成される。グループワークでは、事前調査の実践方法やテーマについて講義し、グループワークの課題を決定してもらおう。グループワークは、本学留学生（TA）にも手伝ってもらい、彼らの出身国の開発問題などを中心に議論してもらいたい。

事前調査は、①我が国のグローバル化の歴史と現状、そして課題②TAの出身国などを中心としたアジア諸国の変化に関する理解 ③我が国がこれからアジア諸国とどのように関わることができるのかに対する提案、という3つに分かれる。グループワークは、事前調査内容、調査方法、課題等を共有し、進捗状況を確認しながら、最後にグループ発表を行い、グローバル化時代における我が国とアジア諸国との関わり合いについて話し合う。この授業は、履修生及びTA（留学生）との対話を重視した形式で行うため、議論に積極的に参加する学生を大歓迎する。

授業計画・内容

- ①グローバル化と何か（対話型講義）
- ②開発指数からみるアジアの開発途上国の特徴（対話型講義）
- ③国内外の事前調査の方法、グループワークについて（グルーピング、役割分担、今後の進め方など）、プレゼンテーション方法、調査内容について
- ④グループ発表（1）我が国のグローバル化の歴史と現状、そして課題
- ⑤グループ発表（2）アジア諸国の変化に関する理解（留学生の出身国などを中心）
- ⑥グループ発表（3）我が国がこれからアジア諸国とどのようにより関わることができるのかに対する提案
- ① ディスカッション：グローバル化と我が国のこれからの対応の在り方について